

# グローバル化、デジタル化する世界と神保町コーヒー

# 研究

THE FRONT LINE OF RESEARCH

# 最前線

本稿ではグローバル化、デジタル化が世界経済や私たちの生活に与えている影響について述べた上で、これに対応して現在、島田ゼミで進めている「千代田学」による「神保町コーヒー・プロジェクト」を紹介したい。

## 1 グローバル化と世界 — 格差の拡大と縮小

現在の世界経済にはグローバル化にともなう大きな動きが3つある。第1は、国と国の格差の縮小である。これは新興国の経済成長によるものである。第2はそれとは反対であるが、各国の国内での格差の拡大である。特に日本などの中間層や下位層の所得は落ち込んでいる。第3に、アフリカにはまだまだ多くの貧困があり、取り残さ

れつつある。つまり、グローバル化により格差の縮小と拡大が同時に起きている世界に我々は生きていく（これらの点については昨年、ノーベル経済学賞受賞者のジョセフ・スティグリッツ教授を明治大学に招へいしセミナーを行い、その際の対談が『経済セミナー』（2020年2・3月号/N.0.712）（日本評論社）より「貧困削減のこれまでとこれから」として出版されている。Kindle版もあるので、ぜひご覧いただきたい）。

## 2 デジタル経済の影響 — 国内と途上国の問題の どちらにも取り組む必要がある

こうした格差の縮小と拡大と2



スティグリッツ教授とともにゼミでグローバル化について議論

つの相反する流れに今後、大きく影響すると考えられているのが経済のデジタル化である。これにより生産性が向上し経済を成長させる効果が期待される。しかし、たとえばAIは「労働代替技術」と言われるように、雇用を奪い格差を拡大させる可能性がある。また、アフリカは人口増により若者が多いことが特徴である。もし若者が大量に失業するようなことがあれば、その不満が新たな紛争の火種

になりかねない。

新型コロナウイルス感染症が図らずも示したように、我々の世界はグローバル化によって遠く見えてもつながっている。グローバル化する世界の中で、国内と途上国の問題のどちらも同時に取り組まなければならない。

## 3 デジタル経済化により 変化する「本の街」

デジタル経済化は都市のあり方にも影響を与えている。東京、ニューヨーク、ロンドンなど情報のハブとなった都市は、金融や多国籍企業の司令塔としてグローバル都市になった。一方、かつての工業都市であったマンチェスターなどは周縁化している。日本でも東京と地方の差が開きつつある。

都市の中でも影響はさまざま。本街である神保町はデジタル経済化の影響を大きく受ける可能性がある。電子書籍化が進むのと同

### PROFILE



島田 剛  
Go Shimada

情報コミュニケーション学部准教授  
専門：国際経済学、産業政策、ソーシャル・キャピタル

1969年 神戸市生まれ  
1992年 (独)国際協力機構(JICA)入構  
2005年 国際連合日本政府代表部一等書記官  
2015年 静岡県立大学准教授  
2018年より現職  
学術博士(早稲田大学)

主な著書・論文  
*Workers, Managers Productivity: Kaizen in Developing Countries*(共編・Palgrave Macmillan, 2020年)  
"Inside the Black Box of Japan's Institution for Industrial Policy - An Institutional Analysis of Development Bank, Private Sector and Labour." in *Efficiency, Finance and Varieties of Industrial Policy*(ジョセフ・スティグリッツ編・コロンビア大学出版会・2017年)

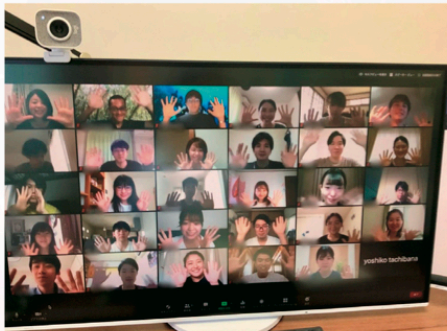
所属学会  
開発経済学会(常任理事)、人間の安全保障学会(理事)、国際開発学会、アメリカ経済学会、日本アフリカ学会、日本国際連合学会

に、紙の本もオンラインでの購入という波が押し寄せているからである。

そのため、島田ゼミでは今年から「Think Globally, Act Locally」の実践として、ダイナミックに変動する世界経済の中で神保町の街づくりを考えようとしている。

## 4 コーヒーの可能性

そんな中でゼミ生たちと注目をしているのがコーヒーである。理



オンラインのゼミでJICAなどの外部講師と神保町の街づくりを議論

由の第1は、本屋との相乗効果である。古書店街の特色ある歴史を生かすには、やはり同じように神保町で歴史を持つコーヒーとの相乗効果があるのではないかと考えるからだ。また、神保町には歴史ある喫茶店に加え、「ミカフェー」や「GLITCH」など新しいタイプの店も増えてきており、多様な楽しみ方を提供できる。

第2には、神保町には公園や緑が少ないが、カフェが都市の中で安らげる場所になると考えられるからである。また、神保町には独特のにぎわいがあり、カフェはそうした人と人のつながり(ソーシャル・キャピタル)を育む場所になり得る。

第3には、コーヒーは途上国にとって重要な作物だからだ。より生産者に寄り添ったコーヒーが増えることにより、コーヒー生産者たちの生活向上にもつながるからだ。

コロナ禍で思うようにいかないことも多いが、学生たちとオンラインで議論を深めている。